

日高胆振知的障がい児・者家族会 通信

家族会ニュース

平成29年度 第1号(通巻21号)
 発行 日高・胆振知的障がい児・者家族会
 事務局 苫小牧市字植苗一二二番地八
 緑星の里やまぶき
 印刷発行 2017年12月

全国知的障害者施設
 家族会全国大会に
 出席して

富門華寮父母の会

会長 平田 秀雄

このたび十月三日・四日秋田市中で開催された全国大会に父母の会として戸田寮長・西村職員(事務局)と共に参加してまいりました。この会は福祉向上と豊かな生活ができるよう平成十七年に設立された組織であり、秋田大会には全国各地から四百名を超える家族や施設の職員が参加して行われました。

大会は『新しい生活の場を語ろう』を開催テーマに進行され、主催者、秋田知事らの来賓挨拶に引き続き基調講演で、講師で厚生労働省の片桐公彦障害福祉専門官が「障害福祉の経緯等について」と題して自らが障害者施設現場の経験者の視点から分りやすく話され、特に「虐待



防止対策」に触れ、障害者施設の従事者による相談・通報件数が実際の虐待数を大幅に上回っており、さまざまな事を見逃さないという職場の規律を徹底する事が必要と又、さまざまな一例として、職員が利用者から何かを尋ねられ、「後でね」とか「ちょっと待ってね」との対応は虐待だと話された。

講演後の「全員参加型討論会」で親の立場から意見表明が行われ、知的障害者の秋田県手をつなぐ育成会会長から「親も息子も年を取る。親が亡くなった後の生活が心配」と話された。

終りの住居と看取りの施設を認めてほしい。」と訴えた。

また、家族連合家族会由岐理事長は、自分の五十歳の息子の例に「彼は、自傷行為や暴力などを起こす行動障害を伴う場合があり、施設で迷惑をかけているとしながらも「どんな理由があるにしろ、障害のある人に支援が必要となることには変わらない」と話された。

また、別の家族会の役員からは「利用者の高齢化が進む中、この子らの看取りに対応した施設は少ないと、支援体制の充実」を呼びかけ、会場からもこれらの発表に関連しての悩みなど活発な意見表明が行われました。

第一日目には交流会も行われ、同じ境遇を持つ家族や施設の職員であり、色々な面から共通する話題や他の件の施設の特徴も情報交換でき大変有意義な大会に参加することができました。

日高・胆振知的障がい児・者家族会入会のご案内

随時会員募集中



最終日には、『安心、安全、快適な生活の場を考える』と題して家族連合家族会南副理事長で自らも施設経営者の立場から快適に過ごす一例として「トイレ臭が漂う生活空間の除去の方法として煩雑に掃除をする」ことに尽きる。」と話された。

最後に入所施設やグループホームを住居と位置付ける制度の新設、職員の定員増と処遇改善を国に求める大会決議を採択して閉会しました。

全施連全国大会
 第十三回全国決議

一、二十四時間切れ目のない支援・介護が可能な障害者支援施設やグループホーム、地域生活支援事業

施設の充実をしてください。またグループホームや地域生活支援事業施設では、栄養士や看護師、介護福祉士などの配置ができるような報酬体系にしてください。

二、安心して必要な支援・介護が受けられる職員の定員増と、更なる処遇改善費の充実をしてください。

三、知的障害児者や強度行動障害への専門的な知識、技術が習得できるように、更なる研修体系の充実を図ってください。

四、国及び地方公共団体は、知的障害児者への障がい福祉サービスを提供する義務を負ってください。

五、「我が事・丸ごと」理念や「共生型サービス」の新設については、知的障害者が慣れ親しんだ施設を引き続き利用できるようにしてください。

編集後記

今年度第一号は、全施連全国大会特集号といたしました。ご協力いただきました富門華寮父母の会の皆様には心よりお礼申し上げます。